

## 09. 社会医学研究部

部長：浦山ケビン

## 【ミッション・目標】

社会医学研究部は、複数の疫学研究手法を用いて、胎児期から幼少期の環境が小児及び成人期の健康に与える影響を調べています。主に、小児期や子育て家庭における各種疾患や社会的困難の原因を追究し、研究から得られた成果から、安心して妊娠・子育てできる環境を社会に提案することを目標としています。

当研究部の構成員は疫学、統計学、社会学、遺伝学、精神保健、栄養学、小児科学、周産期医学、子どもの認知・行動および社会情緒発達等の幅広い専門知識を有しています。このため、全国の大規模な統計情報や医学情報データベース等を活用した研究から、地域レベルでのリクルート・試料採取を行うフィールドワークや記述的な研究まで、多岐にわたる研究手法を用いています。

また、2016年より6NCプロジェクトとしての電子的臨床研究基盤整備事業を、研究所・臨床研究センター・病院・情報管理部の施設横断型組織として運営しております。

疫学研究とは、様々なコラボレーションを通して、より質の高いそして代表性の高い研究を遂行していけるものだと、私たちは信じています。

## 【研究プロジェクト】

## [小児血液がんの発生に関する研究]

- 小児白血病の発症に関わる遺伝素因の探索（日本人対象）
- 小児白血病の発症に関わる遺伝素因の探索（国際メタ解析）
- 子どもの血液がんの環境・遺伝的要因に関する疫学研究（日本人対象）
- 胎児期の母体感染症が小児白血病の発症に及ぼす影響に関する疫学研究（国際プール解析）

## [小児血液がんの臨床成績に関する研究]

- 小児白血病の治療反応性に関わる遺伝素因に関する研究  
（ゲノムワイド関連解析および細胞株を用いた *in vitro* での解析）

## [小児がん経験者の前向きコホート研究]

- 小児がん経験者の医学的・心理社会的晩期合併症に関する研究「NCCHD Lifetime Cohort」
- 小児がん経験者の晩期合併症を予測するバイオマーカーの探索

**[妊娠中および乳幼児期における栄養や微量元素と健康に関する出生コホート研究]**

- 妊娠中の食事摂取の評価手法に関する研究
- 3歳時の食事からの微量元素の摂取と血中のバイオマーカーの相関に関する研究
- 妊娠中の食事摂取（つわりの程度、妊娠体重増加量、タンパク質摂取量）が子どもの発育に与える影響に関する研究

**[日本における低出生体重児の要因・対策および予後に関する研究]**

- 低出生体重児増加の要因分析
- 日本人にとっての適切な妊娠中体重増加量の算出
- 低出生体重児増加が小児期・成人期の長期予後に与えている影響の解析

**[新生児医療の生命倫理に関する疫学研究]**

- 人口動態統計を用いた在胎 22-24 週での出生に対する蘇生の提供に関する研究
- 在胎 22-24 週出生への蘇生提供に関する 10 カ国の NICU へのアンケート調査研究
- 重症児への終末期医療提供に関する 10 カ国の NICU へのアンケート調査研究

**[全国のレセプト情報を用いた医療経済分析研究]**

- 小児期の各種疾病に対する各種治療法の効果に関する比較分析

**[人口動態統計を用いた死因に関する研究]**

- 日本における妊産婦死亡数の産出および死因に関する研究
- 各種疾病（18 trisomy, 21 trisomy, 脳性麻痺）を持つ児の死亡年齢、死因および生前に受けた治療に関する分析

**[電子的臨床研究基盤整備事業]**

- データ集積管理システム REDCAP の導入
- 院内サービス提供開始にむけた基盤整備
- 当センターが運用しているコホート研究のデータマネジメント業務

**[子育て環境と子どもの健康と発達に関する研究]**

- 社会格差がう歯の治療の状況に与える影響
- 親の躾の方法が子どもの発達に与える影響
- 子どもの睡眠習慣がその後の電子機器使用に与える影響
- 親子関係と子どもの長時間のインターネット使用との関係に関する研究
- 三歳以上で未就園の子どもの社会・身体的背景因子に関する研究

- 乳児期からの保育園利用と感染症との関係に関する研究
- 乳児期の親のメンタルヘルスの状況に関する研究

#### [子どもを産みやすい社会環境に関する研究]

- 父親の育児参加が第二子・第三子の出生に与える影響
- 子どもを持つことへの満足度に関する研究
- 不妊治療を経験する女性のメンタルヘルスと QOL に関する追跡調査

#### [東京都足立区実施の子どもの健康と生活実態調査に関連する研究]

- 子どもの睡眠習慣と子どもの問題行動及びレジリエンスとの関連に関する研究
- 子どもの野菜から食べる習慣と肥満との関連に関する研究
- 留守番と子どものメンタルヘルスに関する研究
- 子どものセルフコントロールとう歯との関連に関する研究
- 親の帰宅時間と子どものメンタルヘルスとの関連に関する研究
- 子どもの貧困と虐待との関連に関する研究

#### [不登校に関連する研究]

- 岡山市のデータを用いた子どもの生活への満足度と長期欠席との関連に関する研究
- 文部科学省の「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」のデータを用いた研究

#### [女性ヘルスケア・ビッグデータ解析研究]

- 性交頻度・妊孕性に影響を与える社会心理的要因分析

#### [愛着関連障害診断の症例検討および被虐待乳幼児とその親のオキシトシン・バズプレシン濃度及びそれら受容体の遺伝子多型についての研究]

- 被虐待児とその親はストレスホルモンレベルが高いかを調べる研究

#### [動機付け面接による認知変容に関する研究]

- 面接法の違いにより行動変容への認知が異なるかを調べる研究

#### [成育母子コホート研究]

- 3歳までのデータのクリーニングおよび集計
- Cohort profile paper の執筆
- REDCap でプロジェクト構築

**[世田谷区における小児肥満研究]**

- 小児生活習慣病予防検診のデータ入力および集計
- 父親に重点を置いた HOP-CHAN STUDY（ホップちゃんスタディ）父子介入プログラムの実施

**[成育医療研究センター病院との共同研究]**

- 小児がん経験者の医学的・心理社会的晩期合併症に関する研究「NCCHD Lifetime Cohort」（小児がんセンターとの共同研究）
- 出生コホートにおける不妊治療と児の発達予後に関する研究
- 乳児消化管アレルギーの全国調査データを用いた、疾患分類表および予後予測因子の解析
- 若年妊娠、高齢妊娠と妊娠予後との関連分析
- 小児患者に対する比較分析
- 外来における経口抗生剤の小児への使用量と使用方法に関する分析
- 各種先天性心疾患（ファロー四徴症、完全大血管転移）を持つ児の死亡年齢、死因および生前に受けた治療に関する分析
- 長期入院中の子どもたちの生活の質におけるアバターの効果に関する検討

**【研究体制】**

部長：平成 29 年 1-6 月は不在、浦山ケビン（平成 29 年 7 月より）

室長：加藤承彦（行動科学研究室）

室長：森崎菜穂（ライフコース疫学研究室）

研究員：三瓶舞紀子、半谷まゆみ、田中久子、Aurelie Piedvache、

共同研究員：小川浩平、鈴木朋、本多由紀子、谷友香子、雨宮愛理、小林実夏、可知悠子、大久保祐輔、安達絵美、安藤恵美子、原田正平、伊藤淳、藤原武男、大西香世、谷川朋幸、市瀬雄一、青木康太朗、山岡祐衣

研究補助員：鮎川洋子、小林しのぶ

研究補助者：中野弘美、小林早苗、三浦智子

**【国際共同研究】**

1. Childhood Leukemia International Consortium (CLIC)：世界の 15 以上の小児白血病疫学研究グループとの共同研究：小児白血病の環境・遺伝的要因に関するプール解析やメタ解析

2. **International Childhood Cancer Cohort Consortium (I4C)** : 世界の 10 の大規模母子コホート (日本のエコチル調査を含む) との共同研究 : 小児がんの環境要因に関するプール解析
3. カリフォルニア大学サンディエゴ校 : 冠動脈病変合併川崎病患者に対するアトロバスタチンの安全性と薬物動態を検討する多施設共同第 I/IIa 相試験
4. **The International Network for Evaluation of Outcomes (iNeo)**: 新生児医療ネットワーク 10 カ国の共同研究 : 新生児医療の質と新生児の予後との関連分析研究
5. **Preterm Birth International Collaborative (PREBIC)** (日米欧加豪 30 カ国の周産期疫学者グループ) : 人口動態統計を用いた、周産期予後の要因に関する国際比較研究
6. **World Health Organization** : 2011-2012 年に日本を含む 21 カ国にて行った出生調査情報の二次解析
7. **Harvard School of Public Health (Prof. S V Subramanian)** : 成人期身長の前幼少期の環境要因の指標としての使用に関する研究
8. **Global Burden of Diseases Collaborative (GBDs)**: 幼少期曝露の成人期の健康に与える影響に関する研究

#### 【国内共同研究】

1. 東京医科歯科大学医学部附属病院 小児科 (高木正稔、准教授) : エクソームシーケンスを用いた小児急性リンパ性白血病の発症に関わる遺伝子の探索 (学会発表済み)
2. 北里大学 薬学部 (田中庸一、助教) : 小児急性リンパ性白血病患者における 6-メルカプトプリン毒性に関わる遺伝素因の探索 (ゲノムワイド関連解析)
3. 山梨大学医学部附属病院小児科 (犬飼岳史、教授) : 白血病細胞株を用いた治療反応性に関わる遺伝素因に関する研究
4. 京都大学 ゲノム医学センター (松田文彦、センター長) : 小児白血病の発症に関わる遺伝素因の探索 (ゲノムワイド関連解析) (Urayama et al., *Scientific Reports*, 2018)
5. 東京医科大学 低侵襲医療開発総合センター (杉本昌弘 教授) : 小児血液悪性腫瘍治療後の内分泌代謝異常の発生リスクに関連する代謝生産物変化の同定
6. 聖路加国際大学 大学院公衆衛生学研究科 (高橋理 教授) : 日本人一般集団における健康日誌疫学調査研究 (Fukui et al., *Journal of Community Health*, 2017; Lee et al., *International Journal of Environmental Research and Public Health*, 2018)
7. 聖路加国際病院附属クリニック・予防医療センター (木村武志) : ガスクロマトグラフ質量分析法を用いたメタボローム解析による非アルコール性脂肪性肝疾患の診断モデル開発 (学会発表済み)
8. 聖路加国際病院 小児科 (真部淳 医長) : 小児がん患者における心理学的・精神医学的症状に関連する因子の調査研究 (Maeda et al., *Journal of Pediatrics and Child Health*, 2017)
9. 東北大学 医学系研究科 (仁尾 正記 教授) : 日本胆道閉鎖症研究会: 観察研究に基づ

## く 予後関連因子の評価

10. 千葉大学大学院公衆衛生学分野（尾内善広 准教授）：川崎病の治療反応性・重症化に関連する遺伝素因の探索とそれに臨床的所見を加えた治療反応性予測モデルの開発
11. 東京大学医学系研究科(佐々木敏教授)、東邦大学社会医学講座衛生学分野（朝倉敬子准教授）：質問票を用いた子どもの栄養摂取量測定手法に関する研究
12. 京都大学医学系研究科(中山健夫教授)：周産期予後の母体および地域要因に関する研究
13. 筑波大学医学系研究科（田宮菜奈子教授）：乳児死亡の生物学的因子および社会因子に関する研究
14. 富山大学（齋藤滋教授）：日本産科婦人科学会周産期登録を用いた疫学研究
15. 九州大学（諸隈誠一教授）：エコチル調査を用いた疫学研究
16. 国立がんセンター（津金センター長）：NCC 所有コホート（JPHC-NEXT）を用いた、幼少期曝露の成人期予後に与える影響に関する研究
17. 神奈川県立医療センター（柴崎医師）：新生児 HIE 患者における MRI 所見の長期予後への活用に関する研究
18. 東京医科歯科大学医学部（藤原武男教授）：東京都足立区における子どもの健康と生活実態調査に関する研究
19. 国立社会保障・人口問題研究所（福田節也室長）：男性の育児参加と出生との関係に関する研究
20. 駒沢大学（増田幹人准教授）：子どもを持つことへの満足度に関する研究
21. 岡山大学（頼藤貴志准教授）・岡山県立大学（井上幸子准教授）：不登校に関する研究
22. 慶應義塾大学こどもの機会均等研究センター（赤林英夫教授）：子どもの健康と発達に関する研究
23. 東京大学発達保育実践政策学センター（村上祐介准教授）：「幼児教育推進体制に関する全国自治体調査」に関する研究協力
24. 国立青少年教育機構（青木康太郎研究員）：「インターネット社会の親子関係に関する意識調査」に関する研究協力
25. 株式会社 MTI：女性ヘルスケア・ビッグデータ解析研究：株式会社エムティーアイの月経日や基礎体温、性交日を記録するアプリ「ルナルナ」ビッグデータを用いた、同社と分子内分泌研究部、不妊診療科、周産期・母性診療センター母性内科との共同研究
26. 目白大学（青木豊）：愛着関連障害診断の症例検討および被虐待乳幼児とその親のオキシトシン・バゾプレシン濃度及びそれら受容体の遺伝子多型についての研究

## 【研究の概要】

## [小児血液がんの発生に関する研究]

- 東京小児がん研究グループ（TCCSG）および日本小児白血病リンパ腫研究グループ（JPLSG）と協力して、ゲノムワイド関連解析により小児白血病の発症リスクや予後に関連する遺伝子多型の同定を行っている。
- 国際メタ・ゲノムワイド関連解析により、小児白血病の発症リスクに関連する遺伝子多型の同定を行っている。
- 国内で症例対照研究を実施し、胎児期から幼少期の環境要因や遺伝素因がどのように相互作用して小児血液がんの発症に関与しているかを調べている。
- 国際プール解析により、胎児期の母体感染症が小児白血病の発症に及ぼす影響について調べている。

#### [小児血液がんの臨床成績に関する研究]

- 小児白血病の治療反応性や予後に関連する遺伝子多型を探索している。病態生理の理解や個別化医療の推進を目指している。
- 日本人白血病細胞株（共同研究者の山梨大学犬飼教授が樹立・保有）における抗がん剤感受性と遺伝子多型の関連を解析している。難治性白血病の治療体制メカニズムを解明することを目指している。

#### [小児がん経験者の前向きコホート研究]

- 小児白血病の治療反応性や予後に関連する遺伝子多型を探索している。病態生理の理解や個別化医療の推進を目指している。
- 日本人白血病細胞株（共同研究者の山梨大学犬飼教授が樹立・保有）における抗がん剤感受性と遺伝子多型の関連を解析している。難治性白血病の治療体制メカニズムを解明することを目指している。

#### [妊娠中および乳幼児期における栄養や微量元素と健康に関する出生コホート研究]

- 成育における母子コホート研究において、妊娠初期及び中期における食事摂取状況について、食事頻度調査および採血データとの関連について解析した（Ogawa et al, Journal of Epidemiology, 2017. Ogawa et al, European Journal of Clinical Nutrition, 2018）。
- 母子コホートにおいて、児の出生時体格および2歳時の喘息症状の関係を報告（Ogawa et al, European Journal of Clinical Nutrition, 2018）。また、妊娠中のオメガ3脂肪酸摂取と産後うつ発症率に相関がないことを報告（Kobayashi et al, Public Mental Health, 2017）。
- 母子コホートにおいて、3歳児の栄養状況について食事頻度調査票を用いて評価し、ビタミンD摂取量と血中25(OH)Dの相関を報告した。（Ando et al, British Journal of Nutrition, 2018）
- エコチル調査において、妊娠中の食事のタンパク質量が全カロリーの12%であることが最も胎児発育不全となるリスクを下げること（Morisaki et al, British Journal of Nutrition,

2018)、つわりがの重症度と妊娠中の体重増加量と児の発育不全リスクの関係(投稿中)を報告

#### [日本における低出生体重児の要因・対策および予後に関する研究]

- 米国人人口動態統計を用いて、日本人の出生体重が全米で一番小さいことを報告 (Morisaki et al, Scientific Reports, 2017)
- 成育母子コホートにおいて、妊娠中の体重増加を過度に抑制したいと考えていると、早産や低出生体重児のリスクが上がることを報告 (Morisaki et al, Scientific Reports, 2018)
- 日本産婦人科学会周産期登録データベースを用いて日本人にとっての適切な妊娠中体重増加量を算出し(Morisaki et al, Journal of Epidemiology, 2017)、身長が低い妊婦の早産率が高く(Ogawa et al, Paediatric and Perinatal Epidemiology, 2017) その要因は、妊娠高血圧症候群増大により媒介されること (Morisaki et al, International Journal of Epidemiology, 2017)、高齢妊娠と出産アウトカムとの関連を報告 (Ogawa et al, BMC Pregnancy and Childbirth, 2017)
- 人口動態統計情報などを用いて、低出生体重児増加の時期(1980-1981)と同じくして日本人の成人身長が低下していることを報告 (Morisaki et al, Journal of Epidemiology and Community Health, 2017)
- 人口動態統計情報を用いて、EU を中心として 34 カ国における早産率と early term birth の経年変化を報告 (Delnord et al, European Journal of Public Health, 2018)
- JPHC-NEXT コホートにおいて、出生体重が成人期の疾病発症リスクに与える影響を解析(投稿準備中)

#### [新生児医療の生命倫理に関する疫学研究]

- 人口動態統計を用いて、在胎 22-24 週での分娩に対する蘇生提供の有無は、患者背景(市町村の平均所得、母の年齢、初産であるか)で異なることを報告 (Morisaki et al, Archives of Diseases in Childhood Fetal and Neonatal Edition, 2018) し、6 カ国の人口動態統計情報から在胎 22-24 週での出生において分娩中・出生直後の死亡率が乳児死亡率の計算に与える影響を報告 (Morisaki et al, Pediatrics, 2018)
- WHO が行なった 21 カ国における調査において、国の死産率が早産率に与える影響が、低所得の国ほど低いことを報告 (Morisaki et al, British Journal of Obstetrics and Gynecology, 2017)
- iNEO で行なった 10 カ国の NICU へのアンケート調査研究を行い、在胎 22-24 週出生への蘇生提供に関する施設差(投稿準備中)、重症児への終末期医療の提供状況の国間差を報告(投稿準備中)



#### [全国のレセプト情報を用いた医療経済分析研究]

- 全国の DPC データを用いて小児期の各種疾病(ITP、川崎病、アナフィラキシー、マイコプラズマ感染症、インフルエンザ感染症)に対する各種治療法の効果に関する比較分析を行った (Okubo et al, International Journal of Hematology 2018,
- 小児 BMI と各種気道疾患 (喘息、RS ウィルス感染症、インフルエンザ感染症) の重症化の関連を報告 (Okubo et al, Pediatric Allergy and Immunology 2017,
- 全国の JMDC データベースを用いて、各種疾病 (溶連菌感染症、急性胃腸炎) への抗生剤の処方状況を報告した (Okubo et al, Journal of Global Antimicrobial Resistance. 2018)
- 全国の NDB データベースを用いて、全国の小児患者への外来経口抗生剤の処方状況を報告した (Kinoshita et al, Journal of Infection and Chemotherapy. 2019, Uda et al, Journal of Infection and Chemotherapy. 2019)

#### [人口動態統計を用いた死因に関する研究]

- 乳児の病死、事故死および虐待が疑われる死のそれぞれにおいて、社会因子および生物学的因子の影響を報告した (Yamaoka et al, Journal of Epidemiology, 2018)
- 人口動態統計の出生票・死産票と死亡票のリンケージから、産後 1 年以内の女性の死亡数の産出およびその死因分布を報告 (投稿準備中)
- 各種疾病 (18 trisomy, 21 trisomy, 脳性麻痺) を持つ児の死亡年齢、死因および生前に受けた治療の分布を報告 (投稿準備中)

#### [電子的臨床研究基盤整備事業]

- Vanderbilt 大学が開発したデータ集積管理システム REDCAP を当センター全職員が使用できるように本大学と契約を締結 (五十嵐理事長名)
- 臨床研究センター・病院・情報管理部と共同で、2019 年に REDCAP を院内にサービス提供開始にむけて、IT を含めたシステム基盤整備を行い、2018 年 12 月院内 5 プロジェクトの仮運用を行なっている。
- 成育母子コホートのデータマネジメント業務を行い、0-3 歳までの収集データのクリーニングと整理を行い、院内各研究者が利用できるように整備を行なった。

#### [子育て環境と子どもの健康と発達に関する研究]

- 社会階層が低い家庭の子どもは、年齢とともに虫歯の利用を受ける割合が増え、かつ社会階層の高い家庭の子どもとの差が拡大する傾向を明らかにした(Journal of Community Dentistry & Oral Epidemiology, 2017)。
- 全国データを用いて、親の社会経済状況と児の生後 18 ヶ月までの体重増加不良の関連を調べた結果、乳児が体重増加不良に陥る割合は、世帯所得が上位 4 分位の 1 の世帯と比較して、下位 4 分の 1 の世帯では、1.3 倍高いことを明らかにした(Frontiers in

Pediatrics, 2018)。

- 全く体罰を用いない親と比較して、時々および頻繁に体罰を用いる親の子どもは、問題行動のリスクが高い傾向を明らかにした(Child Abuse & Neglect, 2017)。
- 6歳時点での就寝時間と12歳時点でのメディア機器使用(携帯メール、テレビ・ビデオゲーム)の使用時間との間に関連が見られた(Acta Paediatric, 2018)。
- 親子関係が良好でない小学校高学年児童および中学校生徒は、長時間のインターネット使用をする傾向にあることを示した(投稿中)
- 三歳以上で未就園の子どもには、どのような社会・身体的背景因子が見られるのかを分析した(投稿中)

#### [子どもを産みやすい社会環境に関する研究]

- 父親が育児参加をすると、第二子・第三子が生まれやすい傾向が見られた(Asian Population Studies, 2018)。
- 全国データを分析した結果、第一子が生まれた世帯において、三世代同居が第二子出生に与える影響は見られなかったものの、第二子が生まれた世帯では、第三子の出生に正の影響が見られた。第二子の生まれた家庭では、三世代同居しており、かつ父親が中程度育児参加している場合、その後6年間における第三子の出生の確率が最も高かった(厚生省の指標、2018)。
- 追加の子どもを持つことで、子育てへの満足度がどのように変化するのを分析した(投稿中)
- 市区町村の子どもの事故予防チェックリストの実施が親の安全行動に影響を与えるかを検証した(投稿中)
- 不妊治療によって子どもを出産した母親は、自然妊娠の母親に比べて児童虐待やボンディング障害(子どもを可愛いと思えない)が生じやすいかを検証した(投稿準備中)

#### [東京都足立区実施の子どもの健康と生活実態調査に関連する研究]

- 食事の際に肉や魚から食べ始める子どもは、野菜から食べ始める子どもと比較して、肥満の割合が高い傾向を明らかにした(Frontiers in Pediatrics, 2018)。
- 子どもは週一回以上の家での留守番と問題行動傾向との関連を明らかにした。
- 小学校1年生を対象にして、子どものセルフコントロールと虫歯の数の関連を明らかにした(Journal of Community Dentistry & Oral Epidemiology, 2018)。
- 平日の不規則な睡眠習慣が問題行動とレジリエンスの低さのリスク要因になる可能性を示唆した(Frontiers in Psychiatry, 2018)。
- 低世帯所得などの生活困難と虐待の関連の間に親の心理的ストレスやソーシャル・キャピタルが媒介している可能性を示唆された(Child Abuse & Neglect, 2018)。
- 両親とも帰宅時間が遅い場合または不定の場合、子どもの精神的健康度に悪影響があ

る可能性が示唆された(Frontiers in Pediatrics, 2018)。

- 留守番が子どもの間食と虫歯を増やすかどうかを検証した (投稿準備中)

#### [不登校に関連する研究]

- 岡山県岡山市のデータを用いて、小学校児童の学校適応感尺度のスコアと長期欠席の関連を示した(Health Behavior and Policy Review, 2018)。
- 岡山県岡山市の中学生のデータを用いて、Adaptation Scale for School Environments on Six Spheres (ASSESS)と不登校の日数との関係の関連を分析し、生活への満足度が低い生徒が、不登校のリスクが高い傾向を明らかにした(International Journal of Environmental Research and Public Health, 2018)。

#### [女性ヘルスケア・ビッグデータ解析研究]

- 株式会社エムティーアイの月経日や基礎体温、性交日を記録するアプリ「ルナルナ」ビッグデータを用いた、同社と分子内分泌研究部、不妊診療科、周産期・母性診療センター母性内科との共同研究
- 妊娠を希望している女性を対象に、メンタルヘルスや労働環境や家庭環境、仕事と家庭のバランスなどどのような社会心理的要因が性交頻度・妊孕性に影響を与えるのかを調べる研究

#### [愛着関連障害診断の症例検討および被虐待乳幼児とその親のオキシトシン・バソプレッシン濃度及びそれら受容体の遺伝子多型についての研究]

- 目白大学と小児血液・腫瘍研究部との共同研究
- 被虐待経験のある就学前の子ども及びその親は、被虐待経験のない子ども及びその親に比べてオキシトシン・バソプレッシン等のストレスホルモンの濃度が高いかを調べる研究

#### [動機付け面接による認知変容に関する研究]

- 動機付け面接法を用いた面接と一般の面接とを比べた時に行動変容に対する認知変容の程度が異なるかを検証した (投稿準備中)

#### [成育母子コホート研究]

- 3歳までの血液・検診・質問票等のデータ 29 ファイルをクリーニングし、解析用データとして固定する作業をした。さらに、その一部のデータについて集計した。
- 3歳までのデータを固定することができたので、記述統計をまとめ、Cohort profile paperを執筆している。
- EDC システムの1つである米国 Vanderbilt 大学が開発したデータ収集管理システムで

ある Research Electronic Data Capture Software : REDCap で成育母子コホートのプロジェクトをテスト構築し、データのインポートなど試行した。

#### 【世田谷区における小児肥満研究】

- 世田谷区における小児生活習慣病予防検診にて収集される問診票と質問票のデータ入力を行い（平成 28、29 年度分）、血液データと結合し、集計した。集計結果をまとめ、世田谷区で年 1 回開催される専門委員会で報告した。
- 平成 30 年度より、世田谷区学校保健委員会/専門委員/生活習慣病予防委員会の協力機関として正式に認められ、専門委員会に参加できることとなった。
- 平成 29、30 年度の小児生活習慣病予防検診対象者にリクルートし、父親に重点を置いた父子介入プログラムを実施した。平成 29 年度は 1 家族、平成 30 年度は 5 家族の参加であった。

#### 【平成 29 年研究業績】

##### 1. 誌上発表

##### (1) 英文原著

1. Kobayashi M, Jwa SC, Ogawa K, Morisaki N, Fujiwara T\*. Validity of food frequency questionnaires to estimate long-chain polyunsaturated fatty acid intake among Japanese women in early and late pregnancy. *Journal of Epidemiology*. 2017; 27(1): 30-35
2. Hines D, Modi N, Lee SK, Isayama T, Sjörs G, Gagliardie L, Lehtonen L, Ventog M, Kusuda S, Bassleri D, Mori R, Reichman B, Håkansson S, Darlow B, Adams M, Rusconi M, Feliciano LS, Lui K, Morisaki N, Musrap N, Shah PS\*. Scoping review shows wide variation in the definitions of bronchopulmonary dysplasia in preterm infants and calls for a consensus. *Acta Paediatrica*. 2017;106(3):366-374
3. Chibueze CE\*, Tirado V, Silva Lopes K, Yo T, Balogun OO, Swa T, Dagvadorj A, Nagata C, Morisaki N, Ota E, Mori R, Oladapo OT, Menezes C. Zika virus infection in pregnancy: a systematic review of disease course and complications. *Reproductive Health*. 2017;14(1):28. doi: 10.1186/s12978-017-0285-6
4. Kato T, Yorifuji T, Yamakawa M, Inoue S, Doi H, Eboshida A, Kawachi I. Associations of Maternal Age with Child Health: A Japanese Longitudinal Study. *PLoS One*. 2017; 24;12(2): e0172544
5. Okubo Y, Nochioka K, Testa M. Nationwide Survey of Stevens-Johnson Syndrome and Toxic Epidermal Necrolysis in Children in the United States. *Pediatric Dermatology*. 2017; 34: 206-208

6. Okubo Y, Nochioka K, Testa M. Nationwide survey of pediatric acute osteomyelitis in the USA. *Journal of Pediatric Orthopedics B*. 2017;26(6):501-506
7. Delnord M\*, Hindori-Mohangoo A, Smith L, Szamotulska K, Richards J, Deb-Rinker P, Rouleau J, Velebil P, Sile I, Sakkeus L, Gissler M, Morisaki N, Dolan S, Kramer MR, Kramer MS, Zeitlin J. Variations in very preterm births rates in 30 high-income countries: are valid international comparisons possible using routine data? *BJOG: international journal of obstetrics and gynaecology*. 2017;124(5):785-794
8. Sasaki H\*, Kakee N, Morisaki N, Mori R, Ravens-Sieberer U, Bullinger M. Assessing health related quality of life in young Japanese children with chronic conditions: Validation of the DISABKIDS Smiley measure. *BMC Pediatrics*. 2017; 17(1):100
9. Morisaki N\*, Kawachi I, Oken E, Fujiwara T. Social and anthropometric factors explaining racial/ethnic differences in birth weight in the United States. *Scientific Reports*. 2017;7:46657. doi: 10.1038/srep46657
10. Ogawa K, Kobayashi M, Jwa SC, Morisaki N, Fujiwara T\*. Validation of a food frequency questionnaire for Japanese pregnant women with and without nausea and vomiting in early pregnancy. *Journal of Epidemiology*. 2017;27(5):201-208
11. Ogawa K, Morisaki N\*, Sato S, Saito S, Fujiwara T, Sago H. Association of shorter height with increased risk of Ischaemic Placental Disease. *Paediatric and Perinatal Epidemiology*. 2017;31(3):198-205
12. Morisaki N\*, Zhang X, Ganchimeg T, Vogel J, Zeitlen J, Souza JP, Cecatti JG, Torloni MR, Ota E, Mori R, Tough S, Dolan SM, Kramer MS. Provider-Initiated Delivery and Perinatal Outcomes: A Secondary Analysis of the WHO Multi-Country Survey on Maternal and Newborn Health. *BMJ Global Health*. 2017;2(2):e000204
13. Chibueze CE\*, Parsons AJ, Silva Lopes K, Yo T, Swa T, Nagata C, Horita N, Morisaki N, Balogun OO, Dagvadorj A, Ota E, Mori R, Oladapo OT. Diagnostic Accuracy of ultrasound scanning for prenatal microcephaly in the context of Zika virus infection: a systematic review and Meta-analysis. *Scientific Reports*. 2017;23;7:2310
14. Okuzono S, Fujiwara T, Kato T, Kawachi I. Spanking and subsequent behavioral problems in toddlers: A propensity score-matched, prospective study in Japan. *Child Abuse & Neglect*. 2017; 69: 62-71
15. Aida J, Matsuyama Y, Tabuchi T, Komazaki Y, Tsuboya T, Kato T, Osaka K, Fujiwara T . Trajectory of social inequalities in the treatment of dental caries among preschool children in Japan. *Journal of Community Dentistry & Oral Epidemiology*. 2017; 45(5): 407-412
16. Okubo Y, Habda A. The impact of obesity on pediatric inpatients with urinary tract infections in the United States . *Journal of Pediatric Urology*. 2017;13(5):455.e1-455.e5. doi: 10.1016/j.jpurol.2017.03.038

17. Okubo Y, Handa A. National trend survey of hospitalized patients with febrile seizure in the United States. *Seizure: European Journal of Epilepsy*. 2017;50:160-165. doi: 10.1016/j.seizure.2017.06.020
18. Okubo Y, Nochioka K, Matcia A Testa. Nationwide survey of pediatric septic arthritis in the United States. *Journal of Orthopaedics*. 2017;14(3):342-346
19. Amemiya A, Fujiwara T, Murayama H, Tani Y, Kondo K. Adverse Childhood Experiences and Higher-Level Functional Limitations Among Older Japanese People: Results From the JAGES Study. *Journals of Gerontology, Series A*. 2018;73(2):261-266
20. Hoshino E, Hayashi K, Suzuki M, Obatake M, Urayama KY, Nakano S, Taura Y, Nio M, Takahashi O. An iPhone application using a novel stool color detection algorithm for biliary atresia screening. *Pediatric Surgery International*. 2017; 33(10):1115-1121
21. Sudo T, Okada Y, Ozaki K, Urayama K, Kanai M, Kobayashi H, Gokyu M, Izumi Y, Tanaka T; Association of NOD2 Mutations with Aggressive Periodontitis. *Journal of Dental Research*. 2017;96(10):1100-1105
22. Zhao Y, Zhang J\*, Zamora J, Vogel J, Souza J, Ganchmeg T, Ortiz-Panozo E, Hernandez B, Oladapo O, Torloni M, Morisaki N, Mori R, Pileggi C, Tuncalp O, Shen X, Betran AP. Increases in Caesarean Delivery Rates and Change of Perinatal Outcomes in Low- and Middle-Income Countries: A Hospital-Level Analysis of Two WHO Surveys. *Paediatric and Perinatal Epidemiology*. 2017;31(4):251-262
23. Nagata C\*, Moriichi A, Morisaki N, Gai Tobe, Ishiguro A, Mori R. Inter-prefecture disparity in under-5 mortality: 115 year trend in Japan. *Pediatrics International*. 2017;59(7):816-820
24. Morisaki N\*, Ganchimeg T, Vogel J, Zeitlen J, Cecatti JG, Souza JP, Castro CP, Torloni MR, Ota E, Mori R, Dolan SM, Tough S, Mittal S, Bataglia V, Yadamsuren B, Kramer MS. Impact of stillbirths on international comparisons of preterm birth rates: A secondary analysis of the WHO multi-country survey of Maternal and Newborn Health. *BJOG: international journal of obstetrics and gynaecology*. 2017;124(9):1346-1354
25. Okubo Y\*, Michihata N, Yoshida K, Morisaki N, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H. Effect of pediatric obesity on acute asthma exacerbation in Japan. *Pediatric Allergy and Immunology*. 2017;28(8):763-767
26. Ogawa K, Urayama KY, Tanigaki S, Sago H, Sato S, Saito S, Morisaki N. Association between very advanced maternal age and adverse pregnancy outcomes: a cross sectional Japanese study. *BMC Pregnancy and Childbirth*. 2017; 17(1):349
27. Morisaki N\*, Nagata C, Jwa SC, Sago H, Saito S, Oken E, Fujiwara T. Pre-pregnancy BMI-

- specific optimal gestational weight gain for women in Japan. *Journal of Epidemiology*. 2017;27(10):492-498
28. Darlow BA\*, Lui K, Kusuda S, Reichman B, Gagliardi L, Håkansson S, Bassler D, Modi N, Lee S, Lehtonen L, Vento M, Isayama T, Sjörs G, Helenius KK, Adams M, Rusconi F, Morisaki N, Shah PS. International variations and trends in the treatment for retinopathy of prematurity. *British Journal of Ophthalmology*. 2017;101(10):1399-1404
  29. Morisaki N\*, Urayama KY, Yoshii K, Subramanian SV, Yokoya S. Ecological analysis of secular trends in low birth weight births and adult height in Japan. *Journal of Epidemiology and Community Health*. 2017;71(10):1014-1018
  30. Morisaki N\*, Ogawa K, Urayama KY, Sago H, Sato S, Saito S. Preeclampsia mediates the association between shorter height and increased risk of preterm delivery. *International Journal of Epidemiology*. 2017;46(5):1690-1698
  31. Kobayashi M, Ogawa K, Morisaki N, Tani Y, Fujiwara T\*. Dietary n-3 polyunsaturated fatty acids in late pregnancy and postpartum depressive symptom among Japanese women. *Frontiers in Psychiatry, Public Mental Health*. 2017;8:241
  32. Helenius K\*, Sjörs G, Shah PS, Modi N, Reichman B, Morisaki N, Kusuda S, Lui K, Darlow B, Bassler D, Hakansson S, Adams M, Vento M, Rusconi F, Isayama T, Lehtonen L. Survival in very preterm infants: an international comparison of 10 national neonatal networks. *Pediatrics*. 2017;140(6) pii: e20171264
  33. Okubo Y\*, Michihata N, Yoshida K, Morisaki N, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H. Impact of pediatric obesity on acute asthma exacerbation in Japan. *Pediatric Allergy and Immunology*. 2017;28(8):763-767
  34. Kato T, Fujiwara T, Kawachi I. Associations between mothers' active engagement with infants at 6 months and children's adjustment to school life at ages 5.5 and 11 years. *Child: Care, Health, & Development*. 2017;43(3): 406-414
  35. Yamakawa M, Yorifuji T, Kato T, Tsuda T, Doi H. Maternal smoking place and hospitalization for respiratory tract infections in children: A nationwide longitudinal study in Japan. *Archives of Environmental and Occupational Health*. 2017;72(6): 343-350

### (3) 和文総説

1. 森崎菜穂. 日本における出生体重低下の要因と対策を考える：複数のデータベース解析からのエビデンス 日本周産期・新生児医学雑誌 2017; 第52巻5号
2. 森崎菜穂\*, 永田知映, 左合治彦, 齋藤滋. 日本人にとっての適切な妊娠中体重増加量の算出 産婦人科の実際 2017;66 (6): 522-526

### (4) 著書

1. 加藤承彦, 土橋酉紀. 第三章 幼少期 烏帽子田彰 監修 社会的健康決定要因 日本公衆衛生協会 2017;27-43
2. 学会発表
  - (1) 国際学会講演・シンポジウム・招待講演
    1. Urayama KY. CLIC Meta-analysis of Childhood ALL Genome-wide Association Studies. Childhood Leukemia International Consortium 2017 Scientific Annual Meeting, Minnesota, USA. 2017.10.12
    2. Urayama KY. Epidemiological Approach to Evaluating the Causes of Complex Diseases. Disease Prevention Science I, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, 2017.11.8
    3. Urayama KY. Proposal for a Childhood Cancer Epidemiological Joint Session in Japan. Advance Understanding of Risk Factors for Childhood Leukemia: 2017 CLIC-I4C joint meeting at the National Cancer Institute. Washington DC, USA. 2017.12.14-15
  - (2) 国際学会一般演題発表
    1. Morisaki N, Yoshii K, Yokoya S. Shrinking height in children due to reduced fetal growth: Findings from a serial national cross-sectional study in Japan (1990-2010). 4<sup>th</sup> International Conference on Nutrition and Growth, Amsterdam, 2017.3.4 (oral)
    2. Morisaki N. Socioeconomic inequity in survival for deliveries at 22-24 weeks of gestation. Pediatric Academic Societies Meeting, San Francisco, 2017.5.8
    3. Morisaki N. Variations in delivery room deaths with and without active resuscitation in extremely low gestational age infants: An international survey. Pediatric Academic Societies Meeting, San Francisco, 2017.5.9
    4. Morisaki N. Variation in management of critically ill infants in preterm neonates: An international survey. Pediatric Academic Societies Meeting, San Francisco, 2017.5.9
    5. Morisaki N. Variations in prevention and detection of neurological injury among preterm neonates <29 weeks of gestation: An international survey. Pediatric Academic Societies Meeting, San Francisco, 2017.5.9
    6. Morisaki N. Assessing the impact on reported survival rates of international variation in the classification of deaths at 22 to 25 weeks gestational age. 30<sup>th</sup> Annual Meeting of the Society for Pediatric and Perinatal Epidemiologic Research, Seattle, 2017.6.19  
& 50<sup>th</sup> Annual Meeting of the Society for Epidemiologic Research, Seattle, 2017.6.23
    7. Amemiya A. Associations of adverse childhood experiences with adult diseases and their risk factors in older people: A comparative study of Japan and Finland. PRE-MEETING of 9<sup>th</sup> ISSC (International Society for Social Capital researchers), Turku, 2017.6.6



8. Urayama KY, Ayukawa Y, Takagi M, Yoshimoto Y, Hasegawa D, Hosoya Y, Hirabayashi S, Ozawa M, Takahashi O, Heike Y, Tanaka T, Manabe A. Pilot work for the Japan epidemiological study of hematological cancers in children. International Epidemiological Association World Congress of Epidemiology, Omiya, Japan, 2017.8.22
9. Tanaka Y, Urayama KY, Kawaguchi T, Mori M, Hasegawa D, Akahane K, Ota Setsuo, Koh K, Manabe A. The association between plasma methotrexate concentration and genetic variants in high-dose methotrexate therapy for childhood ALL. Japan Society of Pediatric Hematology/Oncology Annual Meeting, Ehime, Japan, 2017.11.11

(3) 国内学会講演・シンポジウム・招待講演・教育講演・特別講演

1. Urayama KY. English Manuscript Development and Presentation. Pediatrics Seminar, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, 2017.2.27
2. Urayama KY: Epidemiologic Research and Related Informatics. Bioinformatics Course, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, 2017.5.22
3. Urayama KY. Epidemiological Methods: In Brief. Clinical Epidemiological Seminar Series, St. Luke's International University, Tokyo, Japan. 2017.10.6
4. 森崎菜穂. 周産期疫学研究のノウハウ. EZR を用いたコホートデータ解析の実践. 筑波大学医学部小児科教育セミナー, 茨城, 2017.1.21
5. 森崎菜穂. 子どもの死亡を検証し、予防可能な死亡を減らすために。現時点で稼働している新生児の死亡登録制度. 市民公開シンポジウム 防げる死から子どもを守るために～虐待死の検証からすべての子どもの死の検証へ～, 東京, 2017.1.29
6. 森崎菜穂. ビッグデータから小児医療をどう読み解くのか? データ・リンケージによる既存資料の有機的な活用. 第 120 回日本小児科学会学術集会シンポジウム, 東京, 2017.4.15
7. 森崎菜穂. SGA 児の長期予後: 日本人の平均身長は低下している: 胎内発育低下による影響. 第 53 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2017.7.18
8. 森崎菜穂. 母親の適切なタンパク質摂取が、子どもの生活習慣病予防に与える影響についての前向きコホート研究～幼児期の食習慣およびエピゲノムの 2 側面からの検討～. ダノン健康栄養財団カンファランス, 東京, 2017.10.20
9. 三瓶舞紀子, 加濃正人. 卒煙相談の実際, 動機づけ面接法を中心に. 神奈川県健康福祉局研修会, 神奈川, 2017.2.16
10. 三瓶舞紀子. 産後うつ病の妊産婦への支援について～支援の受け入れの困難な妊産婦への具体的なアプローチを考える. 愛知県健康福祉部保健医療局母子保健グループ, 名

古屋, 2017.3.7

11. 三瓶舞紀子. イマドキの妊産婦さんへの支援～関わりが難しいと感じた時に～. 平成29年度第3回養育支援訪問事業推進研修会, 名古屋, 2017.9.7 及び 21
12. 加濃正人, 三瓶舞紀子, 河合厚子. リウマチ看護に役立つ患者さんとのコミュニケーションスキルを学ぶ. MIRAI(中外製薬株式会社), 宇都宮, 2017.11.23

## [研究費]

### 公的研究費

1. 日本医療研究開発機構 クリニカル・イノベーション・ネットワーク推進支援事業 補助事業分担者 森崎菜穂 (30,000 千円; 研究班全体) 「CIN 構想の加速・推進を目指したレジストリ情報統合拠点の構築」
2. 厚生労働科学研究費補助金 (政策科学総合研究事業 臨床研究等 ICT 基盤構築・人工知能実装研究事業)、研究分担者 森崎菜穂 (代表者一括、11,349 千円; 研究班全体) 「周産期関連の医療データベースのリンケージの研究」 H28-ICT-一般-001
3. 文部科学省科学研究費補助金、挑戦的萌芽研究 研究代表者 森崎菜穂(直接経費 1,200 千円; 間接経費 360 千円) 「日本の医学的・社会的背景に沿う、母体保護法のあり方についての包括的研究」
4. 文部科学省科学研究費補助金、若手研究(B) 研究代表者 加藤承彦 (直接経費 600 千円; 間接経費 180 千円) 「保育園を通した親への子育て支援教室実施が子どもの発達に与える効果の検証」
5. 文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(C) 研究分担者 浦山ケビン (500 千円) 「小児の急性リンパ性白血病治療における有害事象に関する遺伝子多型の解明」
6. 文部科学省科学研究費補助金、新学術領域研究 研究分担者 浦山ケビン (150 千円) 「遺伝統計学とビッグデータの邂逅がもたらす新たながんゲノム創薬」
7. 文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(B) 研究分担者 森崎菜穂 (150 千円) 「低出生体重児出生予防のための妊娠期パーソナライズドアプリケーションの開発と検証」
8. 文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(C) 研究代表者 三瓶真紀子 (1,000 千円) 「児童虐待のリスクが高い妊婦に動機づけ面接法で保健師が家庭訪問をしたら虐待は減るか」
9. 文部科学省科学研究費補助金、若手(B) 研究代表者 雨宮愛理 (800 千円) 「子ども期の逆境体験の長期的健康影響に関する日英比較」
10. 文部科学省科学研究費補助金、若手(B) 研究代表者 大久保祐輔 (1,600 千円) 「科学的根拠に基づく小児肥満の指標のカットオフ値の探索」
11. 文部科学省科学研究費補助金、若手(B) 研究代表者 田中久子 (900 千円) 「肥満児に対する生活習慣改善のための父子介入プログラム開発と検証」

## 私的研究費

1. 公益信託日本白血病研究基金（ザ・レジェンド特別賞助成金）、研究代表者 浦山ケビン（2,000 千円）「小児白血病発症の遺伝学的背景に関する研究」
2. 財団せせらぎ、研究助成金 研究代表者 加藤承彦（250 千円）「全国調査を用いた小学校・中学校における「不登校」の経年変化の傾向およびリスク要因の分析」
3. 前川財団、研究助成金 研究代表者 加藤承彦（990 千円）「三世帯同居が子どもの発達および第二子以降の出生に与える影響」

## [その他]

## [教育活動]

浦山ケビン

- 学校法人聖路加国際大学 公衆衛生大学院 教授  
(前期 15 週間、分子疫学講座；後期 15 週間、MPH セミナー講座)
- 東京医科歯科大学 医歯学総合研究科 非常勤講師
- 学校法人聖路加国際大学 臨床研究支援ユニット (SUCCESS) コンサルタント

森崎菜穂

- 東京工科大学 (小児科学 (「新生児学」「事故・虐待」) 非常勤講師

## [社会貢献]

浦山ケビン

- 国際学術誌 査読 10 本以上
- 日本疫学学会 国際化推進委員会
- 日本血液がん学会 白血病・リンパ腫委員会
- International Society of Pediatric Oncology, Program Advisory Committee
- Childhood Leukemia International Consortium, Genetics Working Group, Co-leader
- Journal of Epidemiology 編集委員会、Associate Editor

加藤承彦

- 世田谷区子ども・青少年協議会委員
- 国際学術誌 査読 6 編

森崎菜穂

- 日本小児科学会 情報管理委員会委員・子どもの死亡検証制度委員会委員
- 日本 DOHaD 学会 実行委員
- 国際誌のレビュー(Pediatrics, Obstetrics and Gynecology, Paediatric Perinatal Epidemiology, Journal of Epidemiology, Scientific Reports, PloS One, BMJ Open, BMC Public Health, BMC Pediatrics, Pediatrics International, Journal of Obstetric and Gynecological Research, Journal of

Developmental Origins of Health and Disease, SSM Population Health)

[研究所運営への貢献]

森崎菜穂

- 庶務係

加藤承彦

- 倫理予備審査委員会社会医学部会
- 防災対策ワーキンググループ

## 【平成30年研究業績】

## 1. 誌上発表

## (1) 英文原著

1. Doi S, Fujiwara T, Ochi M, Isumi A, Kato T. Association of sleep habits with behavior problems and resilience of 6- to 7-year-old children: Results from the A-CHILD study, *Sleep Medicine*. 2018; 45:62-68
2. Inoue S, Kato T, Yorifuji T. Self-rated school adjustment and absenteeism: An epidemiological study. *Health Behavior & Policy Review*. 2018; 5(3): 59-66
3. Urayama KY, Takagi M, Kawaguchi T, Matsuo K, Tanaka Y, Ayukara Y, Arakawa Y, Hasegawa D, Yuza Y, Kaneko T, Noguchi T, Taneyama Y, Ota S, Inukai T, Yanagimachi M, Keino D, Koike K, Toyama D, Nakazawa Y, Kurosawa H, Nakamura K, Moriwaki K, Goto H, Sekinaka Y, Morita D, Kato M, Takita J, Tanaka T, Inazawa H, Koh K, Ishida Y, Ohara A, Mizutani S, Matsuda F, Manabe A. Regional evaluation of childhood acute lymphoblastic leukemia genetic susceptibility loci among Japanese. *Scientific Reports*. 2018; 8:789. doi:10.1038/s41598-017-19127-7
4. Morimoto N, Kasuga C, Tanaka A, Kamachi K, Ai M, Urayama KY, Tanaka A. Association between dietary fibre: carbohydrate intake ratio and insulin resistance in Japanese adults without type 2 diabetes. *British Journal of Nutrition*. 2018; 119(6):620-628
5. Okubo Y\*, Michihata N, Morisaki N, Hangai M, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H. Recent trends in practice patterns and comparisons between immunoglobulin and corticosteroid in pediatric immune thrombocytopenia. *International Journal of Hematology*. 2018;107(1):75-82
6. Okubo Y\*, Michihata N, Uda K, Morisaki N, Miyairi I, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H. Dose-response relationship between weight status and clinical outcomes in children hospitalized with influenza-related respiratory infections. *Pediatric Pulmonology*. 2018;53(2):218-223
7. Okubo Y\*, Michihata N, Morisaki N, Uda K, Miyairi I, Ogawa Y, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H. Recent trends in practice patterns and impact of corticosteroid use on pediatric *Mycoplasma pneumoniae*-related respiratory infections. *Respiratory Investigation*. 2018;56(2):158-165
8. Okubo Y\*, Michihata N, Morisaki N, Kinoshita N, Miyairi I, Urayama K, Yasunaga H. Recent patterns in antibiotic use for children with group A streptococcal infections in Japan. *Journal of Global Antimicrobial Resistance*. 2018;13:55-59
9. Kato T, Kumamaru H, Fukuda S. Associations of men's participation in housework and childcare with parity progression: A Japanese population-based study. *Asian Population Studies*. 2018; 14(3) 290-309

10. Kato T, Yorifuji T, Yamakawa M, Inoue S. National data showed that delayed sleep in six-year-old children was associated with excessive use of electronic devices at 12 years. *Acta Paediatrica*. 2018; 107(8), 1439-1448
11. Kato T. Associations of gender role attitudes with fertility intentions: a Japanese population-based study on single men and women of reproductive ages. *Sexual & Reproductive Healthcare*. 2018; 16: 15-22
12. Horiuchi Y, Tanimoto S, Latif AHMM, Urayama KY, Aoki J, Yahagi K, Okuno T, Sato Y, Nakajima H, Hara K, Tanabe K. Identifying Novel Phenotypes of Acute Heart Failure Using Cluster Analysis of Clinical Variables. *International Journal of Cardiology*. 2018;1;262:57-63
13. Delnord M\*, Mortensen L, Hindori-Mohangoo A, Blondel B, Gissler M, Kramer MR, Richards JL, Deb-Rinker P, Morisaki N, Nassar N, Nybo Andersen AM, Kramer MS, Zeitlin J. Can we apply a population approach to preterm birth prevention? An ecological study of preterm and early term births in 34 high-income countries. *European Journal of Public Health*. 2018;28(2):303-309
14. Okubo Y\*, Morisaki N, Michihata N, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H. Dose-response relationship between weight status and clinical outcomes in infants hospitalized with respiratory syncytial virus infections. *Pediatric Pulmonology*. 2018;53(4):461-466
15. Beltempo M, Isayama T, Vento M, Lui K, Kusuda S, Lehtonen L, Sjors G, Hakansson S, Adams M, Noguchi A, Reichman B, Darlow B, Morisaki N, Bassler D, Pratesi S, Lee S, Lodha A, Modi N, Helenius K, Shah PS\*. Respiratory management of extremely preterm infants: an international survey. *Neonatology*. 2018;13;114(1):28-36
16. Daru J\*, Zamora J, Felix BF, Vogel J, Oladapo O, Morisaki N, Tuncalp O, Torloni MR, Mittal S, Jayaratne K, Lumbiganon P, Togoobaatar G, Khan KS. Severe anemia and maternal mortality: Multilevel and propensity score regression analyses of the World Health Organization Multi-country Survey. *Lancet Global Health*. 2018;6(5):e548-e554
17. Morisaki N\*, Isayama T, Samura O, Wada K, Kusuda S. Socioeconomic inequity in survival for deliveries at 22-24 weeks of gestation. *Archives of Diseases in Childhood. Fetal and Neonatal Edition*. 2018;103(3):F202-F207
18. Sasaki H\*, Kakee N, Morisaki N, Mori R, Ravens-Sieberer U, Bullinger M. Assessing health-related quality of life in Japanese children with chronic conditions: Validation of the DISABKIDS Chronic Generic Module. *Health Quality Life Outcomes*. 2018;2;16(1):85
19. Ogawa K\*, Morisaki N, Kobayashi M, Jwa SC, Tani Y, Sago H, Horikawa R, Fujiwara T. Maternal vegetable intake in early pregnancy and wheeze in offspring at the age of 2 years. *European Journal of Clinical Nutrition*. 2018;72(5):761-771
20. Yamaoka Y, Morisaki N\*, Noguchi H, Takahashi H, Tamiya N. Comprehensive assessment of risk factors of cause-specific infant deaths in Japan. *Journal of Epidemiology*. 2018;5;28(6):307-

314

21. Uda K, Okubo Y\*, Shoji K, Miyairi I, Morisaki N, Michihata N, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H. Trends of neuraminidase inhibitors use in children with influenza related respiratory infections. *Pediatric Pulmonology*. 2018;53(6):802-808
22. Okubo Y\*, Michihata N, Morisaki N, Yoshida K, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H. Effects of glucocorticoids on hospitalized children with anaphylaxis. *Pediatric Emergency Care*. 2018. doi: 10.1097/PEC.0000000000001544 [Epub ahead of print]
23. Matsuyama Y, Fujiwara T, Ochi M, Isumi A, Kato T. Self-control and dental caries among elementary school children in Japan. *Journal of Community Dentistry & Oral Epidemiology*. 2018;46(5):465-471. doi: 10.1111/cdoe.12387. Epub 2018 Jun 4
24. Doi S, Fujiwara T, Ochi M, Isumi A, Kato T. Relationship between leaving children home alone and child mental health in Japan: Results from the A-CHILD study. *Frontiers in Psychiatry*. 2018; 9:192. doi: 10.3389/fpsy.2018.00192
25. Tani Y, Fujiwara T, Ochi M, Isumi A, Kato T. Does eating vegetable first prevent child overweight in Japan? A-CHILD study. *Frontiers in Pediatrics*. 2018;6:134. doi: 10.3389/fped.2018.00134
26. Kachi Y, Fujiwara T, Yamaoka Y, Kato T. Parental socioeconomic status and weight faltering in infants in Japan. *Frontiers in Pediatrics*. 2018;6:127. doi: 10.3389/fped.2018.00127
27. Okubo Y, Handa A. Nationwide trend analysis of pediatric inpatients with immune thrombocytopenia in the United States. *Journal of Pediatric Hematology/Oncology*. 2018;40:e140-144
28. Lee M, Ohde S, Urayama KY, Takahashi O, Fukui T. Weather and Health Symptoms. *International Journal of Environmental Research and Public Health*. 2018;15(8):1670
29. Smith L, Morisaki N\*, Morken NH, Gissler M, Deb-Rinker P, Rouleau J, Hakansson S, Kramer MR, Kramer MS. An International Comparison of Death Classification at 22 to 25 Weeks' Gestational Age. *Pediatrics*. 2018;142(1). pii: e20173324
30. Okubo Y\*, Michihata N, Morisaki N, Sundel R, Yasunaga H. Association between dose of glucocorticoids and coronary artery lesions in Kawasaki disease. *Arthritis Care & Research*. 2018;70(7):1052-1057
31. Ogawa K, Morisaki N\*, Sago H, Fujiwara T, Horikawa R. Association between women's perceived ideal gestational weight gain during pregnancy and pregnancy outcomes. *Scientific Reports*. 2018;8(1):11574
32. Darlow BA, Vento M, Beltempo M, Lehtonen L, Håkansson S, Reichman B, Helenius K, Sjörs G, Sigali E, Lee S, Noguchi A, Morisaki N, Kusuda S, Bassler D, San Feliciano L, Adams M, Isayama T, Shah PS, Lui K: on behalf of the International Network for Evaluating Outcomes (iNeo) of Neonates. Variations in Oxygen Saturation Targeting, and Retinopathy of Prematurity

- Screening and Treatment Criteria in Neonatal Intensive Care Units: An International Survey. *Neonatology*. 2018;114(4):323-331
33. Shibasaki J, Aida N, Morisaki N, Tomiyasu M\*, Nishi Y, Toyoshima K. Changes in Brain Metabolite Concentrations after Neonatal Hypoxic-ischemic Encephalopathy. *Radiology*. 2018 June 12. doi: 10.1148/radiol.2018172083. [Epub ahead of print] 2018; 288(3):840-848
  34. Ando E, Morisaki N\*, Asakura K, Sasaki S, Fujiwara T, Horikawa R. Association between Vitamin D intake and serum 25(OH)D levels in Japanese children. *British Journal of Nutrition*. 2018; 120(9):1034-1044
  35. Isumi A, Fujiwara T, Ochi M, Kato T. Mediating effects of parental psychological distress and individual-level social capital on the association between child poverty and maltreatment in Japan. *Child Abuse & Neglect*. 2018;83:142-150
  36. Kizuki M, Ochi M, Isumi A, Kato T, Fujiwara T. Parental time of returning home from work and child mental health among first-year primary school students in Japan: Result from A-CHILD Study. *Frontiers in Pediatrics*. 2018;6:179. doi: 10.3389/fped.2018.00179
  37. Okubo Y, Handa A, Nariai H. National survey of factors associated with repeated admissions due to febrile seizure. *Seizure*. 2018;61:149-152
  38. Okubo Y, Nochioka K, Testa MA. Nationwide survey of hospitalization due to pediatric food-induced anaphylaxis in the US. *Pediatric Emergency Care*. 2018 Aug 14. [Epub ahead of print]
  39. Nomura O, Okubo Y. The correct use of noninferiority trials. *The Journal of Pediatrics*. 2018;200:295
  40. Takahashi T, Okubo Y, Pereda MA, Handa A, Miller S. Factors associated with mechanical ventilation use in children with sickle cell disease and acute chest syndrome. *Pediatric Critical Care Medicine*. 2018;19:801-809
  41. Shibasaki J, Aida N, Morisaki N, Tomiyasu M\*, Nishi Y, Toyoshima K. Changes in Brain Metabolite Concentrations after Neonatal Hypoxic-ischemic Encephalopathy. *Radiology*. 2018 Sep; 288(3):840-848
  42. Ando E, Morisaki N\*, Asakura K, Sasaki S, Fujiwara T, Horikawa R. Serum 25-hydroxyvitamin D levels showed strong seasonality but lacked association with vitamin D intake in 3-year-old Japanese children. *British Journal of Nutrition*. 2018 Nov;120(9):1034-1044
  43. Morisaki N, Nagata C, Yasuo S\*, Kato K, Sanefuji M, Shibata E, Tsuji M, Senju A, Kawamoto T, Ohga S, Kusuhara K, Morokuma S. Optimal protein intake during pregnancy for reducing the risk of fetal growth restriction: the Japan Environment and Children's Study. *British Journal of Nutrition*. 2018;120(12):1432-1440
  44. Uda K, Kinoshita N, Morisaki N, Okubo Y, Kasai M, Horikoshi Y, Miyairi I\*. Targets for optimizing oral antibiotic prescriptions for pediatric outpatients in Japan. *Journal of Infection and Chemotherapy*. 2018 Dec 25. doi: 10.7883/yoken.JJID.2018.374. [Epub ahead of print]



45. Inoue S, Kato T, Yorifuji T. Interpersonal Relationships, and Learning Influence Withdrawal from School: A Study among Junior High School Students in Japan. *International Journal of Environmental Research and Public Health*. 2018; 15(10)
46. GBD 2017 SDG Collaborators. Measuring progress from 1990 to 2017 and projecting attainment to 2030 of the health-related Sustainable Development Goals for 195 countries and territories: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2017. *Lancet*. 2018;392(10159):2091-2138
47. Ogawa K\*, Morisaki N, Kobayashi M, Jwa SC, Tani Y, Sago H, Horikawa R, Fujiwara T. Reply to Shakira et al.: Validation of a food frequency questionnaire for Japanese pregnant women in mid to late pregnancy. *European Journal of Clinical Nutrition*. 2018 doi: 10.1038/s41430-018-0263-2. [Epub ahead of print]
48. Huang M, Inukai T, Kagami K, Abe M, Shinohara T, Watanabe A, Somazu S, Oshiro H, Goi K, Goto H, Minegishi M, Iwamoto S, Urayama KY, Sugita K. Splicing variant profiles and single nucleotide polymorphisms of the glucocorticoid receptor gene in relation to glucocorticoid-sensitivity of B-cell precursor acute lymphoblastic leukaemia. *Hematological Oncology*. 2018 Feb;36(1):245-251
49. Takahashi T, Okubo Y, Handa A. Acute chest syndrome among children hospitalized with vaso-occlusive crisis: A nationwide study in the United States. *Pediatric Blood & Cancer*. 2018;65(3).
50. Okubo Y, Nochioka T, Testa MA. The impact of pediatric obesity on hospitalized children with lower respiratory tract infections in the United States. *Clinical Respiratory Journal*. 2018;12(4):1479-1484. doi: 10.1111/crj.12694. Epub 2017 Sep 7
51. Maeda K, Hasegawa D, Urayama KY, Tsujimoto S, Azami Y, Ozawa M, Manabe A. Risk factors for psychological and psychosomatic symptoms among children with malignancies. *Journal of Paediatrics and Child Health*. 2018;54(4):411-415

### (3) 和文総説

1. 森崎菜穂. 新生児医療最新トピック Next! ライフコース疫学研究について. *ネオネイタルケア*、2018年.31巻3号 P67

### (4) 日本語論文

1. 加藤承彦,福田節也. 男性の育児参加が次子の出生に与える影響：三世同居との相互作用の検討. *厚生指標*、厚生労働統計協会、2018
2. 三瓶舞紀子. ハイリスク妊産婦支援が楽になる動機付け面接活用の可能性. *保健師ジャーナル*、2018 ; 74 (8) : 704-711

## 2. 学会発表

## (1) 国際学会講演・シンポジウム・招待講演

1. Urayama KY. Basics in Epidemiological Research Design: An Overview. 18th International Society for Pediatric and Adolescent Diabetes (ISPAD) Science School for Physicians, Kanagawa, 2018.9.30
2. Urayama KY. Epidemiology of Childhood Cancers: Perspectives from East Asia. CLIC-I4C Joint International Symposium, International House of Japan, Tokyo, 2018.11.12
3. Urayama KY. CLIC ALL GWAS Meta-analysis Working Session. Childhood Leukemia International Consortium Annual Meeting, Tokyo, 2018.11.13

## (3) 国内学会講演・シンポジウム・招待講演・教育講演・特別講演

1. Miyamoto S, Naruto T, Morio T, Urayama KY, Manabe A, Takagi M. Association of a TCF3 germline variant with pediatric B-cell precursor ALL development, The 80th Annual Meeting of the Japan Society of Hematology, Osaka, Japan. 2018.10.10
2. Miyamoto S, Naruto T, Morio T, Urayama KY, Manabe A, Takagi M. TCF3 inherited variants in children with B-cell precursor acute lymphoblastic leukemia, Japan Society of Pediatric Hematology/Oncology Annual Meeting, Kyoto, Japan. 2018.11.16
3. Urayama KY. Epidemiological Methods: In Brief. Clinical Epidemiological Seminar Series, St. Luke's International University, Tokyo, 2018.10.9
4. Urayama KY. TCCSG Projects on Inherited Genetic Variation. TCCSG Winter Seminar. St. Luke's International Hospital. 2018.3.3
5. Urayama KY. Epidemiological Methods: In Brief. Clinical Epidemiological Seminar Series, St. Luke's International University, Tokyo, Japan. 2018.10.9
6. Urayama KY: Epidemiologic Research and Related Informatics. Big Data Analytical Science Course, Tokyo Medical and Dental University, 2018.5.28
7. Urayama KY. Basics in Epidemiological Research Design: An Overview. 18th ISPAD Science School for Physicians, International Society of Pediatrics and Adolescent Diabetes, Kanagawa, Japan. 2018.9.30
8. Urayama KY. Epidemiology of Childhood Cancers: Perspectives from East Asia. CLIC-I4C Joint International Symposium, International House of Japan, Tokyo, Japan. 2018.11.12
9. Urayama KY. CLIC ALL GWAS Meta-analysis Working Session. Childhood Leukemia International Consortium Annual Meeting, Tokyo, Japan, 2018.11.13-15
10. 浦山ケビン. 疫学研究における情報学概論. 東京医科歯科大学ビッグデータ解析学, 東京, 2018.5.28
11. 森崎菜穂. “海外からみた日本”からはじまる母子保健研究. 愛知医科大学, 愛知, 2018.6.15

12. 森崎菜穂. 日本人の平均身長低下：胎内発育低下の長期的影響. 第 44 回東京成長ホルモン成長因子セミナー, 東京, 2018.6.29
13. 加藤承彦. 3歳以降で未就園の子の社会・身体的背景要因の分析. 子どもの貧困研究のフロンティア定例学術研究会, 東京, 2018.9.19
14. 加藤承彦. Characteristics Associated with Non-Utilization of Early Center Care among Children between the Ages of 3 and 5. Mini-conference on Early Childhood Research, 東京, 2018.8.1
15. 加藤承彦. 社会疫学の観点から見た乳幼児期の子どもの健康と発達. 同志社大学赤ちゃん学研究センター定期セミナー, 京都, 2018.6.19
16. 加藤承彦. 都市部で育児をする親を取り巻く社会環境. 社会福祉法人ちとせ校友会職員研修会, 東京, 2018.5.28
17. 加濃正人, 磯村毅, 三瓶舞紀子. 動機づけ面接技法. 第 7 回動機づけ面接法集中講座, 神奈川, 2018.1.6-1.8
18. 三瓶舞紀子. 家族と関わり支える面接技法, 第 2 回管内児童虐待対応地域リーダー養成研修会, 千葉, 2018.2.2
19. 加濃正人, 三瓶舞紀子. 第 3 回卒煙サポートセミナー, 神奈川, 2018.2.15
20. 三瓶舞紀子. 禁煙支援が楽になる、患者さんとの会話のコツ-エビデンスベースの面接法「動機づけ面接」-. 禁煙サポート薬剤師要請ワークショップ, 東京, 2018.9.29
21. 三瓶舞紀子. 保護者からのドキッと一言への対応を考える. 平成 30 年度第 2 回養育支援訪問事業推進研修会, 名古屋, 2018.10.12 及び 11.16
22. 三瓶舞紀子. 周産期のメンタルヘルスと妊産婦へのアプローチ. 平成 30 年度養育支援関係機関連絡会議(研修会), 栃木, 2018.11.14
23. 三瓶舞紀子. Social determinant of Health (健康の社会的決定要因) とタバコ-社会疫学的視点から-. 第 9 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 三重, 2018.6.16

#### [メディア]

1. Normile D. Staying slim during pregnancy carries a price. Science. 2018.8.3. doi:10.1126/science.aau9712

#### [研究費]

##### 公的研究費

1. 日本医療研究開発機構 クリニカル・イノベーション・ネットワーク推進支援事業 補助事業分担者 森崎菜穂 (1,000 千円)「CIN 構想の加速・推進を目指したレジストリ情報統合拠点の構築」

2. 厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業 臨床研究等 ICT 基盤構築・人工知能実装研究事業）、研究分担者 森崎菜穂（代表者一括、12,200 千円;研究班全体）  
「周産期関連の医療データベースのリンケージの研究」H28-ICT-一般-001
3. 厚生労働行政推進調査事業費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業（健やか次世代育成総合研究事業）） 研究分担者 森崎菜穂（班全体 7,500 千円「含、間接経費」）「乳幼児の身体発育及び健康度に関する調査実施手法及び評価に関する研究」  
H30-健やか-指定-008
4. 文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(B) 研究代表者 浦山ケビン（直接経費 3,600 千円；間接経費 1,080 千円）「小児白血病の発症要因および生存者の医学的・社会的予後に関する包括的な疫学研究」
5. 文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(C) 研究分担者 浦山ケビン（800 千円）  
「小児の急性リンパ性白血病治療における有害事象に関する遺伝子多型の解明」
6. 文部科学省科学研究費補助金、新学術領域研究 研究領域提案型 研究分担者 浦山ケビン（100 千円）「遺伝統計学とビッグデータの邂逅がもたらす新たながんゲノム創薬」
7. 文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(B) 研究分担者 森崎菜穂（150 千円）「低出生体重児出生予防のための妊娠期パーソナライズドアプリケーションの開発と検証」
8. 文部科学省科学研究費補助金、挑戦的萌芽研究 研究代表者 森崎菜穂(直接経費 1,800 千円;間接経費 540 千円) 「日本の医学的・社会的背景に沿う、母体保護法のあり方についての包括的研究」
9. 文部科学省科学研究費補助金、若手研究(B) 研究代表者 加藤承彦（直接経費 1,200 千円;間接経費 360 千円）「保育園を通した親への子育て支援教室実施が子どもの発達に与える効果の検証」
10. 成育医療研究開発費、研究代表者 浦山ケビン（3,850 千円）「小児血液悪性腫瘍克服患者における晩期合併症の予後予測バイオマーカーを探索するためのオミクス解析研究」
11. 成育医療研究開発費、研究代表者 加藤承彦（1,570 千円）「不妊治療を受ける女性の精神的健康度と Quality of Life の変化に関する疫学研究」
12. 文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(C) 研究代表者 三瓶真紀子（580 千円）  
「児童虐待のリスクが高い妊婦に動機づけ面接法で保健師が家庭訪問をしたら虐待は減るか」
13. 文部科学省科学研究費補助金、若手(B) 研究代表者 雨宮愛理（900 千円）「子ども期の逆境体験の長期的健康影響に関する日英比較」
14. 文部科学省科学研究費補助金、若手(B) 研究代表者 大久保祐輔（1,400 千円）「科学的根拠に基づく小児肥満の指標のカットオフ値の探索」

## 私的研究費

1. 公益信託日本白血病研究基金（ザ・レジェンド特別賞助成金）、研究代表者 浦山ケビン（2,000 千円）「小児白血病発症の遺伝学的背景に関する研究」
2. 公益財団法人 MSD 生命科学財団（研究助成 ーがん領域ー）、研究代表者 浦山ケビン（3,000 千円）「ゲノムワイド関連解析のメタ解析と細胞株実験による分子生物学的検証を用いた、小児急性リンパ性白血病の治療薬剤耐性および急性期・晩期合併症発生機序の解明」
3. 上原記念生命科学財団（国際シンポジウム開催助成金）、研究代表者 浦山ケビン（1,000 千円）「国際小児悪性腫瘍疫学シンポジウム」
4. 公益財団法人 井上科学振興財団（国際研究集会開催経費援助）、研究代表者 浦山ケビン（1,000 千円）「国際小児悪性腫瘍疫学シンポジウム」
5. ファイザーヘルスリサーチ振興財団、研究助成金 研究代表者 加藤承彦（900 千円）「不妊治療中の女性のメンタルヘルスと生活の質の変化」
6. ダイオーズ記念財団、研究助成金 研究代表者 加藤承彦（700 千円）「首都圏在住の乳幼児を持つワーキングマザーを対象とした子育て支援プログラムの構築に向けた調査研究」

## [その他]

## [教育活動]

浦山ケビン

- ・ 学校法人聖路加国際大学 公衆衛生大学院 教授  
（前期 15 週間、分子疫学講座；後期 15 週間、MPH セミナー講座）
- ・ 東京医科歯科大学 医歯学総合研究科 非常勤講師
- ・ 学校法人聖路加国際大学 臨床研究支援ユニット（SUCCESS）コンサルタント

森崎菜穂

- ・ 東京大学大学院医学共通講義生殖発達加齢医学入門（母子保健学）非常勤講師
- ・ 東京工科大学（小児科学（「新生児学」「事故・虐待」）非常勤講師

## [社会貢献]

浦山ケビン

- ・ 国際学術誌 査読 10 本以上
- ・ 日本疫学学会 国際化推進委員会
- ・ 日本血液がん学会 白血病・リンパ腫委員会
- ・ International Society of Pediatric Oncology, Program Advisory Committee
- ・ Childhood Leukemia International Consortium, Genetics Working Group, Co-leader

- Journal of Epidemiology 編集委員会、Associate Editor

森崎菜穂

- 日本小児科学会 情報管理委員会委員・子どもの死亡検証制度委員
- 日本 DOHaD 学会 実行委員
- 国際誌のレビュー(Pediatrics, Obstetrics and Gynecology, Paediatric Perinatal Epidemiology, Journal of Epidemiology, Scientific Reports, PloS One, BMJ Open, BMC Public Health, BMC Pediatrics, Pediatrics International, Journal of Obstetric and Gynecological Research, Journal of Developmental Origins of Health and Disease, SSM Population Health)

加藤承彦

- 国際学術誌 査読 10 本以上
- 世田谷区子ども・青少年協議会委員
- 学生団体 GEIL 主催「学生のための政策立案コンテスト 2018：健康格差」審査員

[研究所運営への貢献]

森崎菜穂

- 庶務係

加藤承彦

- 倫理予備審査委員会社会医学部会
- 防災対策ワーキンググループ